

廃てんぷら油で エコビジネス

先進地・十勝の試み

<上>

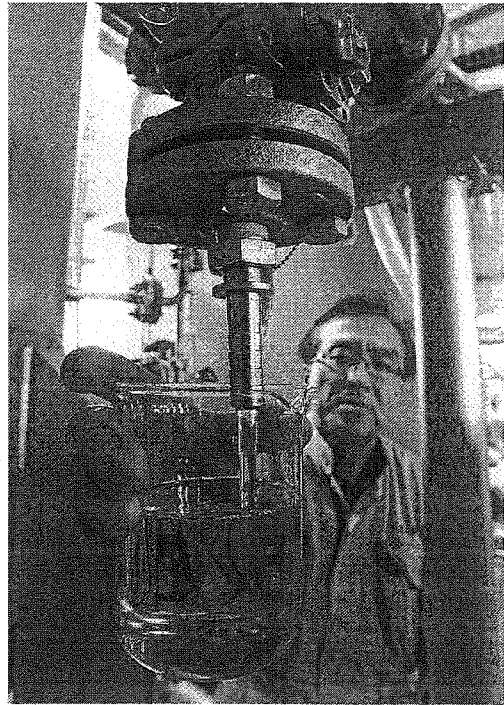
帯広市のバイオデ
ーゼル燃料(BDF) 社が本業。2年前に創
製造販売会社「エコE は、「十勝のBDF製
RC(エルク)」―寺 道の核に」と設立を構
嶋誠一社長が十勝管 想した中心人物だっ
内豊頃町に建てた工場 た。
に、同市で集めたてん エコERCは、先行
ぶら油などの廃油を積
んだバキュームカーが
行き来する。月50トの
BDF生産量は道内最
大規模。「帯広で排出
される年間320トの
食用油の27%を回収
し、その比率はBDF
先進地の京都市の2倍
強です」。9月3日に
帯広で開かれた北海道
公衆衛生大会で、為広
正彦副社長(49)は胸を
張って講演した。

為広副社長は同管内
更別村の廃棄物処理会

高回収率

してBDFを研究して
いたNPO法人「十勝
エネルギーネットワー
ク」と連携して、帯広
を「BDFのまち」に
変えた。菜種油やBD
Fの普及に取り組みN
PO法人「菜の花ネッ
トワークプロジェクト」
(滋賀県)は、ま
ちぐるみの回収量など
らにバス、タクシーに
も回収ボックスを積ん

ちぐるみの回収量など
らにバス、タクシーに
も回収ボックスを積ん



廃てんぷら油を原料に作られたBDF。かすかにてんぷら油の香りが漂う

地域ぐるみ成果着実

先進地」と評価する。 市内拠点12カ所

十勝エネルギーネッ
トには農家や企業、大
学教員などが加入し、
小学校やスーパー、ガ
ソリンスタンドなど帯
広市内約120カ所に
回収拠点を設けた。さ
りに着手した京都市。

でもらうなどして同社
の事業を支え、1カ月
当たりの回収量は昨年
の3トが今年6トに
倍増した。

全国的なBDF先進
地は、1996年に廃
食店から買っているの
が、大半はホテルや飲
食店から買っているの
た。

出前授業で啓発
十勝エネルギーネッ
トの西崎邦夫理事長
幌)は9月、エコER

BDF 植物性
炭素は原料の植物が成長
時に吸収したものを再放
出しただけと見なされ、
大気中の二酸化炭素を増
やさない燃料と考えられ
える。燃焼で出る二酸化

(65)帯広畜産大特任
教授は、高い回収率
の理由を「回収箱を置
くだけなら店の経費負
担はなく、逆に環境対
策に取り組みというイ
メージアップになるか
事の一部に導入した。
地球温暖化防止のた
め自治体レベルで二酸
化炭素排出量削減を目
指そうと昨年、国の環
境モデル都市に指定さ
れた帯広で、新ビジネ
スが花開こうとしてい
る。

(帯広報道部の中村征
太郎が担当します)

発信
2009

廃てんぷら油で エコビジネス

先進地・十勝の試み

＜中＞

8月中旬、十勝管内更別村の菜の花畑で、ごま粒大の菜種が詰まったさやを、大型コンバインがこ音を立てながら刈り取っていた。2秒で菜の花を栽培した岡寛さん(45)は「今年はずっといい」と笑顔を見せた。



大型コンバインで収穫され、トラックに積み込まれる菜種＝8月11日、十勝管内更別村

内では秋まき小麦の作付けが過剰傾向で、連作による土壌病害も発生している。十勝農試の梶山努栽培システム科長は「菜の花も小麦と同じ秋まき。小麦収穫後に翌年収穫する菜種をまくことができ、輪作に組み込める」という。小麦の収量減を招く病害を防げば、長期的には農家の手取りが増える。収穫された真っ黒い菜種がトラックに積み込まれる。岡さんはそれを「菜の花栽培」に見ながら「菜の花栽培は一石二鳥どころじゃないね」と満足げだ。新しいビジネスモデルが、十勝の農業に新風を吹き込んでいる。

循環

農家と協力菜種栽培

「今年はずっといい」と笑顔を見せた。

農機にもBDF

バイオディーゼル燃料(BDF)を製造販売しているエコERC(帯広)は2年前の創業時から、管内の畑作農家に菜の花の栽培を委託している。同社は構想しているのは、B

テムづくりだ。

今年はずっといいと笑顔を見せた。

DF精製を目指す。

菜の花を栽培し、その廃食用油からできたBDFを農機具に使用すれば、農家は燃料を自分で賄ったことになり、菜の花栽培を受託した農家側も、環境保護への意識を高めた。今年5秒で菜の花を栽培した同村の小谷広一は

輪作に組み込む

菜の花栽培は農業経営にも利点がある。管

8倍の年940トのB

DF精製を目指す。

菜の花栽培は農業経営にも利点がある。管

発信
2009

廃てんぷら油を

エコビジネス

先進地・十勝の試み

東京の日本橋三越本イオディーゼル燃料店で9月20日に開かれた北海道物産展。約10店が参加した人気イベントに、エコERC食用油販売と、回収・C(帯広)が売り出し再生食用菜種油「エコリーナ」と、てんぷら用の「北海道産なたね油」が並んだ。売れたのは1日数本。それでも、店に立った同社の鳥本純子さん(25)は「道内外の生協や健康食品店にも販路は広がっています」と、笑顔を見せた。

二つの壁

価格競争へ特区要望



日本橋三越本店の北海道物産展で菜種油を売り込むエコERCの鳥本さん(左)＝9月20日

ないとエコERCや地元経済関係者などは6月、混合率50%を実現する特区指定を国に申請した。

「不具合はなし」

国側は8月、「BDF利用者がアンケートでは(エンジンなどに)不具合があったという回答が多い」と、文書で特区対応はしないと中間回答した。だが、十勝バスは「エンジンに不具合が出たことはない」とし、全国バイオディーゼル燃料利用促進協議会(東京)の藤井絢子代表は、国の言う不具合は「粗悪な」と認めない改正品質検査法を施行した。こぶろく製品も出回り、品質を統一する体制がないと指摘する。

格をできるだけ抑えるという、燃料部門の体質強化も狙いという。BDFは廃物利用で原料代が安いため、軽油と価格競争ができています。現在は原料が製品1リットルあたり30円で、添加するアルコール代や設備代などを含めて

体質強化で努力

販売価格は同100円前後だ。ただ、厳寒期には着火性が悪くなるので、夏場より約30円高くなる。

販売価格は同100円前後だ。ただ、厳寒期には着火性が悪くなるので、夏場より約30円高くなる。

さらには2月、BDFはエンジンの部品として、全国バイオディーゼル燃料利用促進協議会(東京)の藤井絢子代表は、国の言う不具合は「粗悪な」と認めない改正品質検査法を施行した。こぶろく製品も出回り、品質を統一する体制がないと指摘する。

無期限の「特区」扱いだ。同社の為広正彦副社長は「冬に軽油なしで使える品質向上も目指したい」と話す。環境保護から食料自給率引き上げまで、地域の可能性を掘り起こすエコ燃料の挑戦は続く。

発信
2009